

---

---

# 湘南高等学校卒業生調査 結果の概要

---

---

- Part1 回収状況と回答者のプロフィール
- Part2 湘南高等学校在学時代の生活実態
- Part3 大学時代の生活実態
- Part4 現在の仕事
- Part5 これまでの変化
- Part6 高校時代を振り返って

# Part 1 回収状況と回答者のプロフィール

## 1.1 回収状況

本調査は、神奈川県立湘南高等学校を1978（昭和53）年3月～2012（平成24）年3月に卒業した者を母集団とし、ランダムサンプリングによって抽出した7,840人（各卒業年224人ずつ）を対象に実施した。郵送数、有効郵送数（宛先不明など、戻ってきたものを差し引いた数）、回収数ならびに回収率は図表1-1のとおりである。

なお、本調査に該当する質問の一部は、「首都圏の高校卒業後、大学に進学、現在、正規社員として働く30～50代大卒男子（以下、「首都圏男子大卒」）」にも尋ねている（調査時期2013年10月、回収数は1,153名、調査会社イブソス株式会社のモニターを対象に実施）。項目の制約に加え、首都圏男子大卒調査は20代や女子を対象に含んでいない、「高校時代」ではなく「中高時代」という用語を用いているといった違いはあるものの、参考データとして、以下に可能な範囲で回答分布を併記した。

図表 1-1

郵送数	7,840
有効郵送数	7,777
回収数	1,755
回収率	22.8%

## 1.2 回答者のプロフィール

湘南高等学校卒業生（以下、「湘南卒業生」と表記）ならびに首都圏男子大卒のプロフィールは、図表1-2に示したとおり。首都圏男子大卒に比べて、湘南卒業生の方が（1）ミドル層（30代半ば～50代半ば）の回答が少ない、（2）人文社会系や理・工・農学系の比率が小さく、医療系の比率が高い、（3）修士や博士の比率が高い、といった特徴がある。

図表 1-2

年齢

	湘南	首都圏男子 大卒
20-24歳	1.1	0.0
25-29歳	14.0	0.0
30-34歳	11.9	12.1
35-39歳	12.1	17.3
40-44歳	13.2	16.5
45-49歳	14.1	19.0
50-54歳	16.8	19.4
55-59歳	16.4	15.7
無回答ほか	0.4	0.1

性別

	湘南
男性	50.5
女性	49.2
無回答ほか	0.3

学部時代の専門領域

	湘南	首都圏男子 大卒
人文社会系	43.7	50.7
理・工・農学系	30.0	37.6
医療系	12.4	2.4
教育系	7.3	3.4
その他、芸術系・学際系など	5.0	6.0
無回答ほか	1.7	0.0

最終学歴

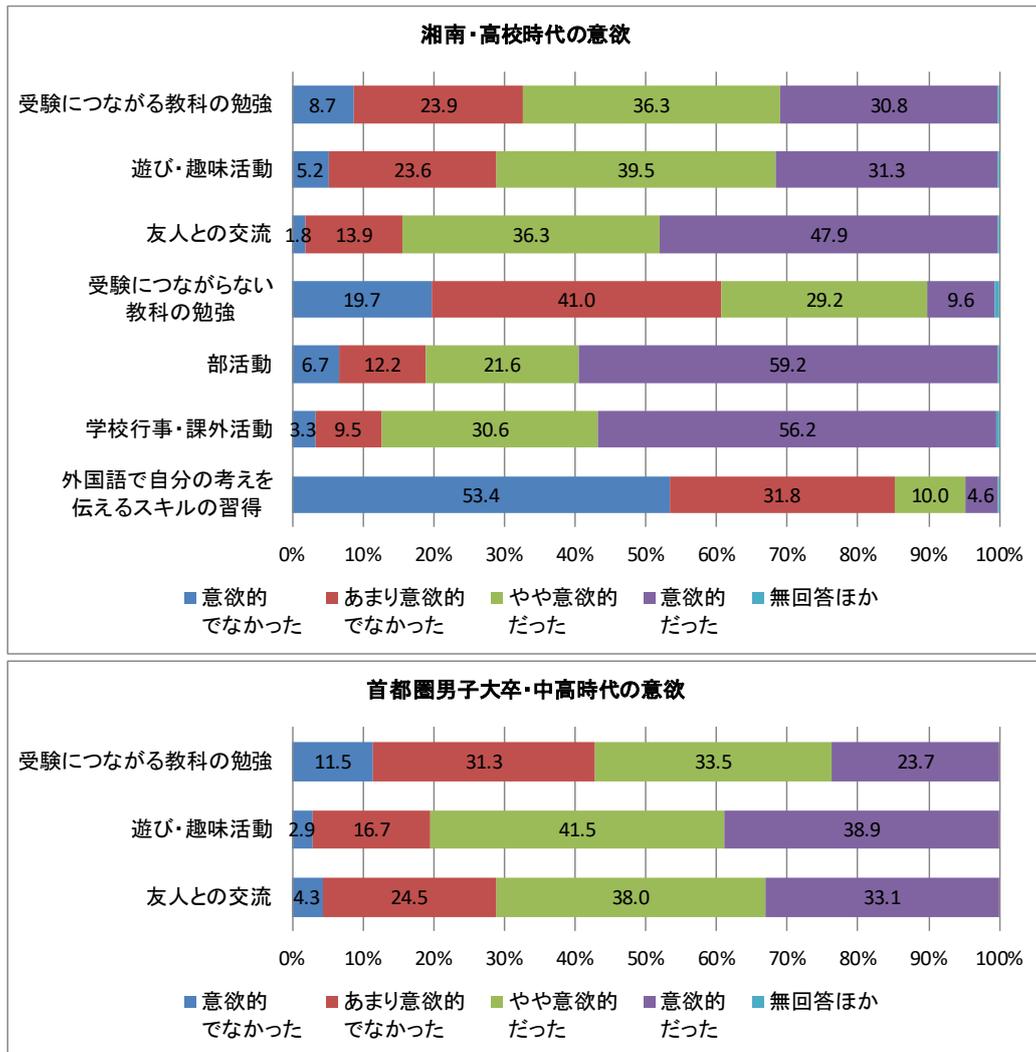
	湘南	首都圏男子 大卒
学士	63.6	74.5
修士	23.0	15.0
博士	8.2	2.0
その他	2.8	8.5
無回答ほか	2.5	0.0

## Part 2 湘南高等学校在学時代の生活実態

### 2.1 学習や読書、遊びなどに対する意欲（一部首都圏男子大卒調査項目）

高校時代の過ごし方を尋ねたところ、湘南卒業生の意欲は多方面に向いていたことがうかがえた。用意した7つの選択肢のうち「意欲的だった（やや意欲的+意欲的）」を選んだ者の比率は「受験につながる教科の勉強」「外国語で自分の考えを伝えるスキルの習得」を除くすべての項目で3分の2以上の値が確認された。とりわけ「学校行事・課外活動」について「意欲的だった」と回答した者の比率は86.8%にもものぼり、その多さが強調されよう。なお、「受験につながる教科の勉強」は67.1%が「意欲的だった」と回答している一方、「外国語で自分の考えを伝えるスキルの習得」に「意欲的だった」という者は14.6%であり、両者のあいだの差は5割ほどであった（図表2-1）。

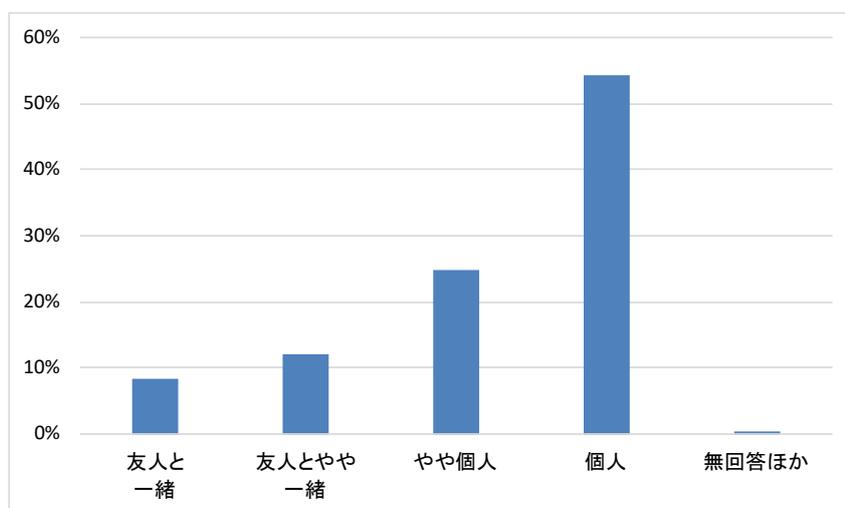
図表 2-1



## 2.2 友人たちとの勉強

高校時代の勉強について、友人と一緒に取り組んでいたのか、個人で取り組んでいたのかを尋ねたところ、多くが「個人で取り組んでいた」と回答していた（図表 2-2）。ただ、この分布は世代による違いも大きく、若い層ほど「友人と一緒に」と答える者の比率が増す。「友人と一緒に」「友人とやや一緒に」の2つを足し合わせた比率で示せば、50代14%、40代17%だったのが、30代26%、20代31%にまで値は上昇する。

図表 2-2

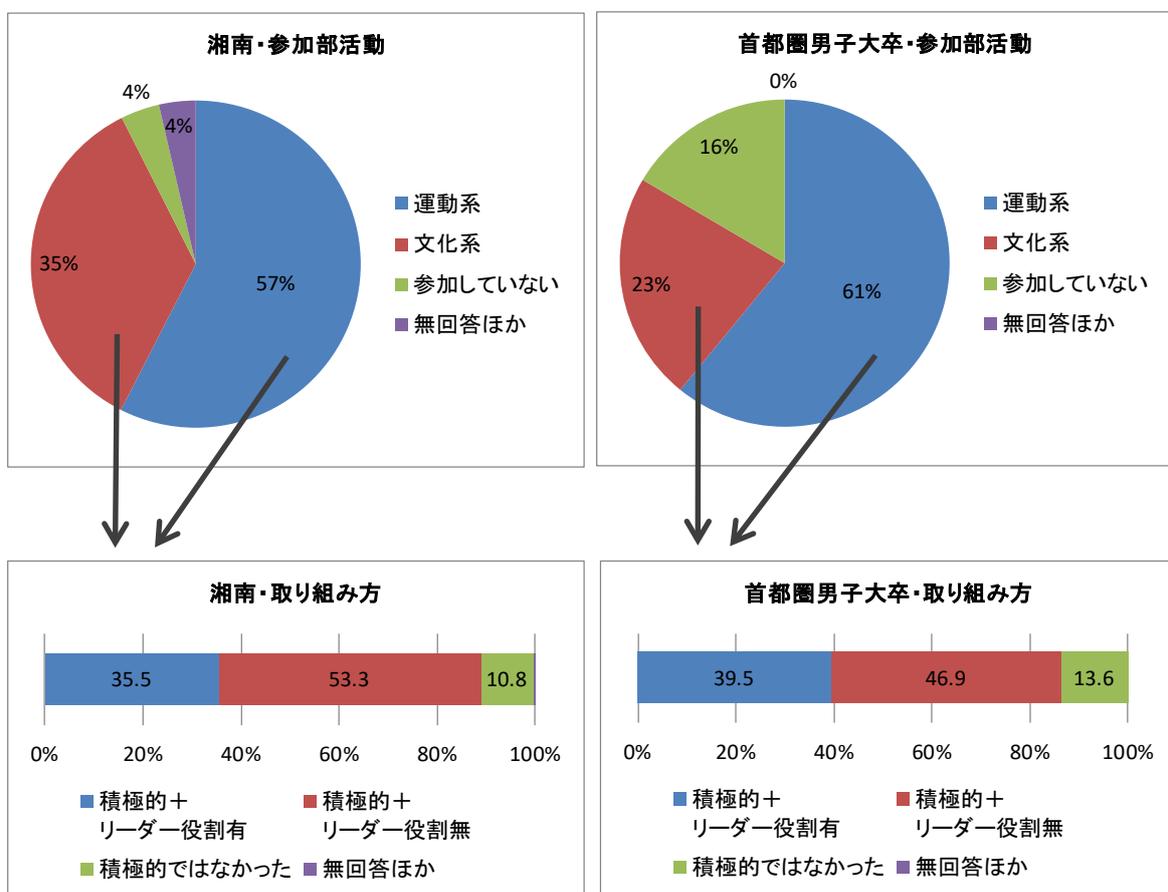


### 2.3 部活動への取り組み (首都圏男子大卒調査項目)

部活動に関しては、湘南卒業生のほうが首都圏男子大卒よりも参加率がやや高めだという結果が得られた。その差はとくに「文化系」であらわれており、湘南卒業生 35% > 首都圏男子大卒 23%。それに対し、「参加していなかった」者は湘南卒業生 4% < 首都圏男子大卒 16% だった。

他方で、リーダー的役割を担っていた者の比率は湘南卒業生のほうが数%低い。リーダー的役割を担うことはないながらも積極的に参加していたという者は 53.3% であり、リーダー的役割も担っていた者 35.5% とのあいだに 2 割弱の差が開いている (図表 2-3)。

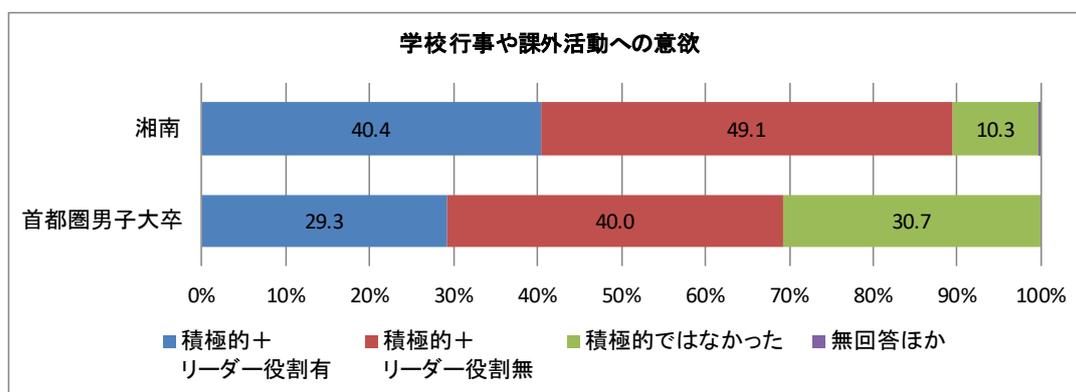
図表 2-3



## 2.4 学校行事や課外活動への取り組み（首都圏男子大卒調査項目）

他方で、運動会や文化祭、修学旅行、生徒会といった学校行事・課外活動におけるリーダー比率は、湘南卒業生のほうが相対的に高かった。「学校行事や課外活動におおむね積極的に取り組み、リーダー的な役割を担ったこともある」者は5人に2人。回答者自体の偏り等に理由がある可能性もあり、結論を急ぐことはできないが、湘南卒業生の場合、行事等に積極的に参加する傾向が強いなかで、リーダー的役割も多くの人が担うことができるような体制もしくは文化があったとみることができるかもしれない（図表 2-4）。

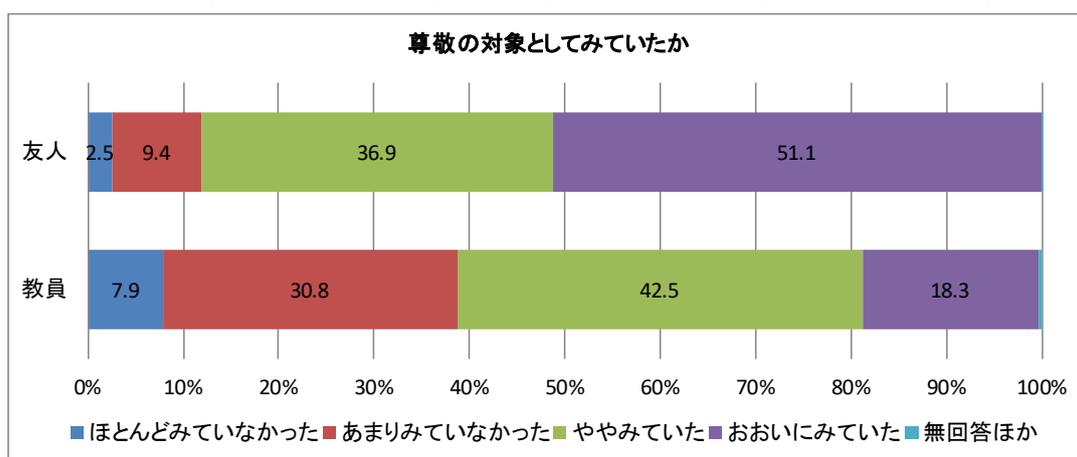
図表 2-4



## 2.5 尊敬の対象としての友人と教員

高校時代の友人や教員を、どれぐらい「リスペクト（尊敬）」の対象としてみていたか、という点について尋ねたところ、友人をそのようにみていた（やや+おおいに）者は88.0%とかなり高い比率が算出された。教員をそのようにみていた（やや+おおいに）者の比率も60.8%となっており、首都圏男子大卒に対して同様の質問をしていないが、湘南高校時代の生活が、お互いを認め合う刺激にあふれたものであったことが推察される（図表 2-5）。

図表 2-5

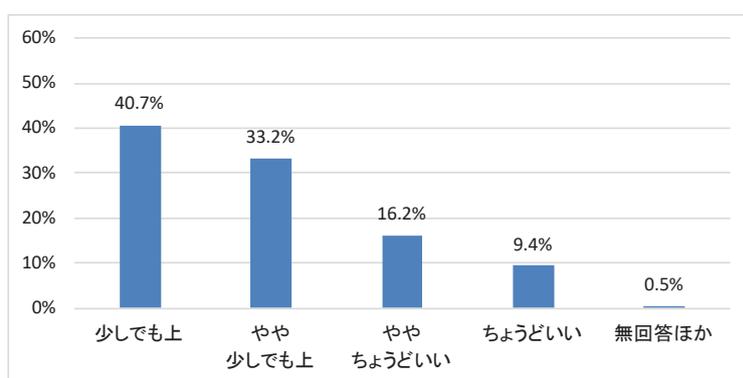


## 2.6 湘南高等学校時代の状況

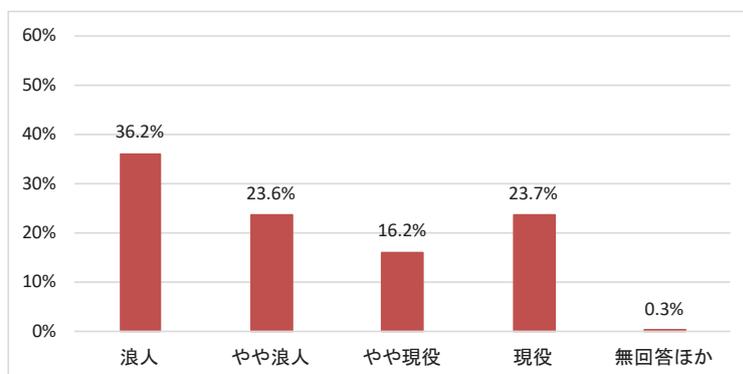
「進路先の選び方」「現役・浪人選択」「教員からの指導」という3つの観点から湘南時代の状況を尋ねたところ、回答者の多くが、教員からの指導を「少ない」と感じるなかで、「少しでも上の大学を目指」す生活をしていたことが読み取れた。現役か、浪人かについては、前者4割、後者6割といった分布になっているが、男女別に状況を確認すると、「浪人してでも志望先に進むことにこだわっていた」女性卒業生は47.9%だったのに対し、男性卒業生のその値は71.9%という値が算出された（図表2-6）。

図表 2-6

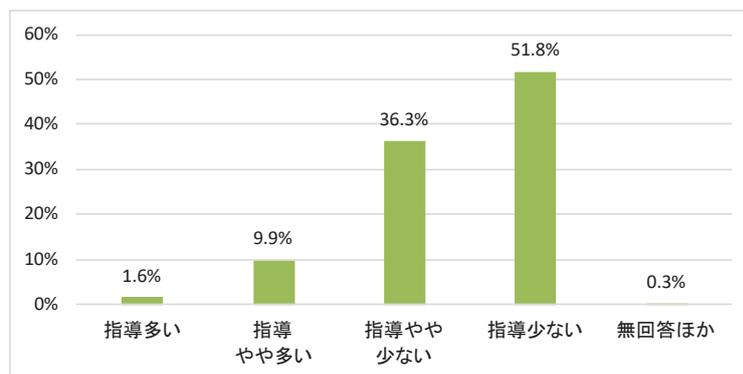
「少しでも上の大学を目指していた」か、「ちょうどいいぐらいの大学を目指していた」か



「浪人してでも、志望先に進むことにこだわっていた」か、「現役での進路決定にこだわっていた」か



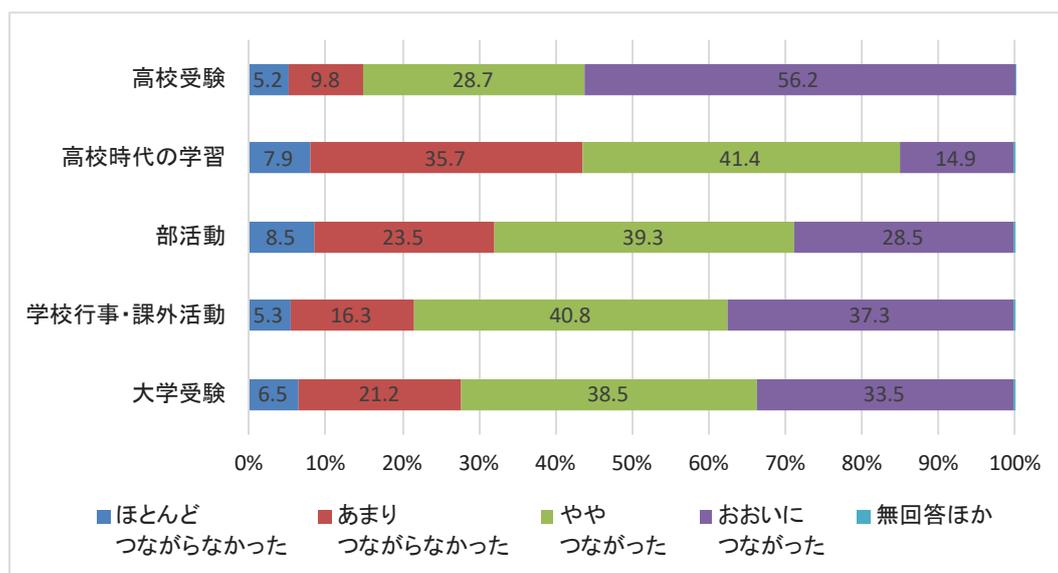
「学習や進路選択をめぐる教員からの指導が多かった」か、「学習や進路選択をめぐる教員からの指導が少なかった」か



## 2.7 「やればできる」という実感につながった経験

高校受験ならびに高校時代のいくつかの経験について、「やればできる」という実感につながったかどうかを答えてもらったところ、とくに「高校受験」を「つながった」ものとして捉えている者が多いことがわかった。また、「学校行事・課外活動」や「部活動」も「やればできる」という実感をもたらす大事な経験になっており、とくに「学校行事・課外活動」について肯定的回答を寄せる者は8割弱にもものぼっていた（図表 2-7）。

図表 2-7



## 2.8 高校前半期の過ごし方

高校前半期の過ごし方を、部活動・学校行事と学習との対比のなかで回答してもらった。その結果、「部活動や学校行事重視」という前半期の特性が浮き彫りになったが、同時に勉強時間の確保に努めていた者も少なからずいたことが確認された。「それなりの勉強時間は確保」「同じように時間を割いていた」「勉強に多くの時間を割くようにしていた」の3つの回答比率を足し合わせれば、31.6%。集団のなかの3人に1人がそのような構えを持っていたことが持つ意味は、小さくなかったはずだ（図表 2-8）。

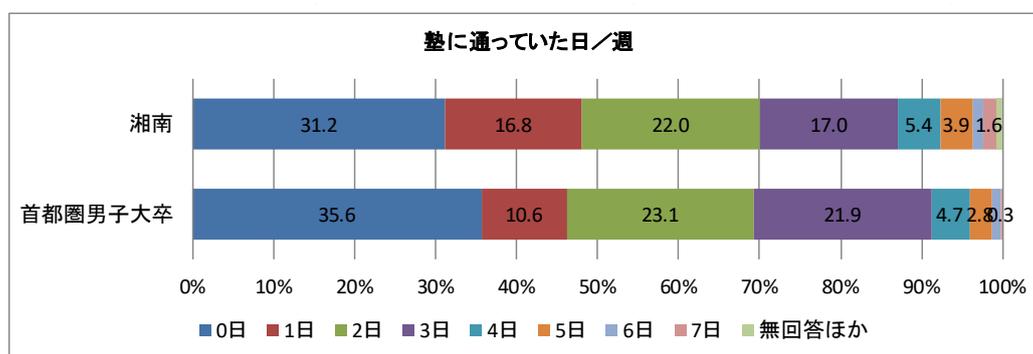
図表 2-8

部活動や学校行事など、勉強以外のことが中心で、勉強にはほとんど時間を割かなかった	37.3%
部活動や学校行事など、勉強以外のことが中心だったが、最低限の勉強時間は確保していた	30.8%
部活動や学校行事など、勉強以外のことが中心だったが、それなりの勉強時間は確保していた	15.5%
部活動や学校行事などとともに、勉強にも同じように時間を割いていた	12.1%
部活動や学校行事などよりは、勉強に多くの時間を割くようにしていた	4.0%
無回答ほか	0.3%

## 2.9 塾の利用状況（首都圏男子大卒調査項目）

高校在学時代、塾を利用していた湘南卒業生は、首都圏男子大卒とほぼ同程度というところだろうか。利用していなかった（＝0日）という者の比率は31.2%であり、逆にいえば、3人に2人は塾に通っていたことがわかる。ただし、状況は世代によって大きく異なり、塾を利用していなかった者の比率は、20代で15.7%、30代で13.0%であるのに対し、40代29.2%、50代53.7%。上の世代は、学校中心の生活を送っていたことがうかがえる（図表2-9）。

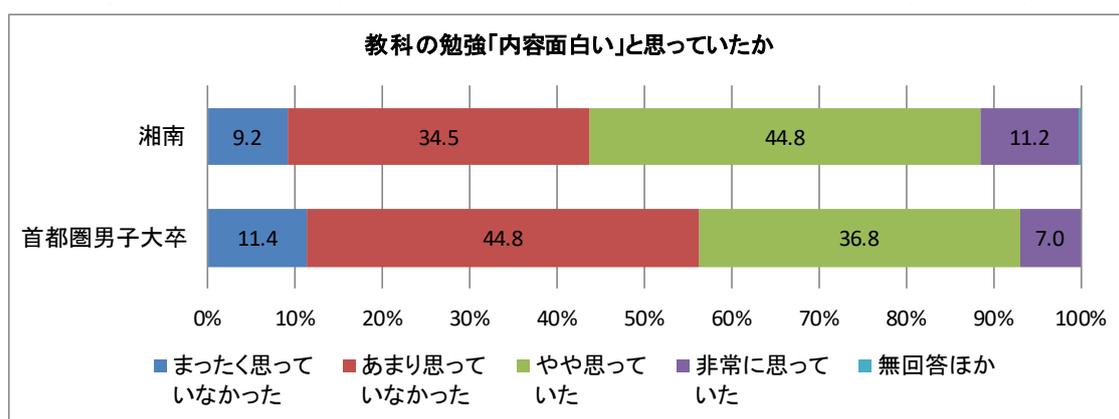
図表 2-9



## 2.10 教科の勉強について「内容自体を面白い」と思っていたか（首都圏男子大卒調査項目）

調査では、教科の勉強について、その内容自体を面白いと感じていたかどうかについても4件法で尋ねた。「非常に思っていた」と「やや思っていた」を足し合わせた比率は、湘南卒業生 56.0%、首都圏男子大卒 43.8%。湘南卒業生は、教科の勉強も、単なる受験勉強としてではなく、楽しみながら取り組むことができていたようだ（図表 2-10）。

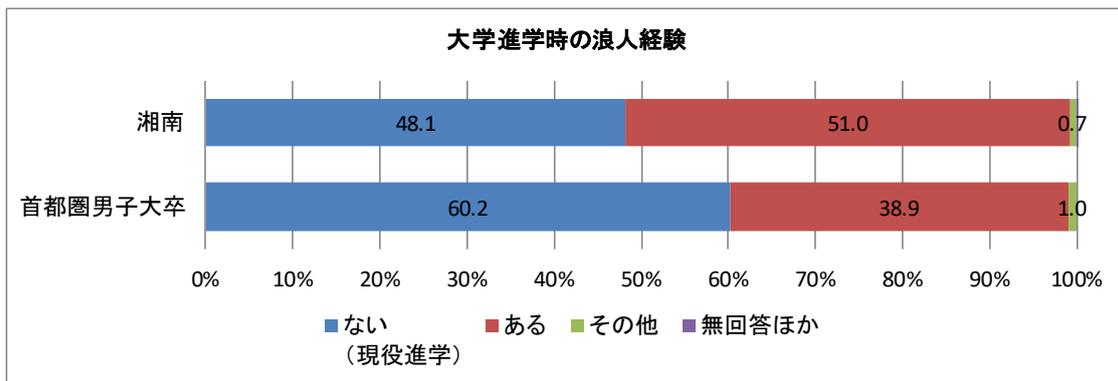
図表 2-10



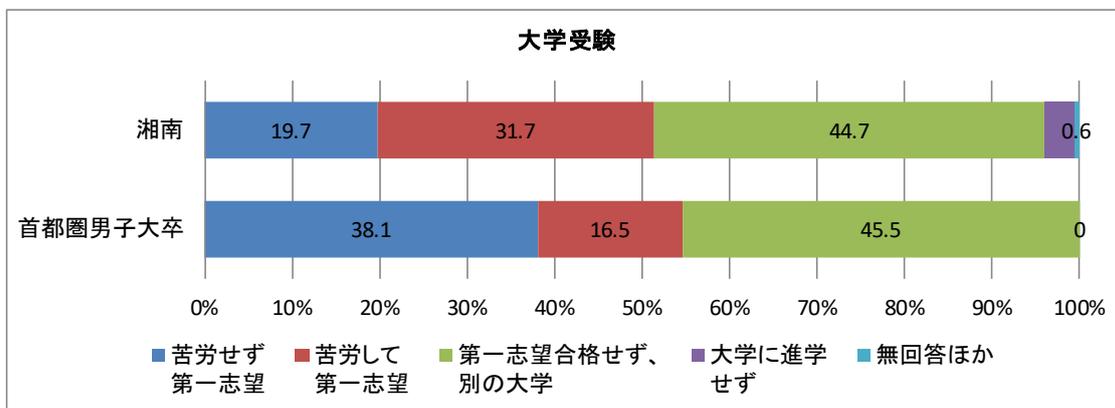
## 2.11 大学受験（首都圏男子大卒調査項目）

大学受験に関しては、（１）浪人経験の有無、（２）合格を獲得するにあたっての苦勞の度合い、（３）第一志望に合格したか、の３点から尋ねたが、その回答からは、妥協せずに大学受験に取り組む湘南卒業生の姿が浮かんできた。浪人経験がある者の比率は 51.0%（首都圏男子大卒 38.9%）。現役で合格できる大学で手を打つことなく、志望校への合格を目指す傾向が強い（図表 2-11）。また、「苦勞して第一志望に受かった」という者の比率も 31.7%と、首都圏男子大卒の 16.5%の 2 倍ほどの値が確認された（図表 2-12）。

図表 2-11



図表 2-12

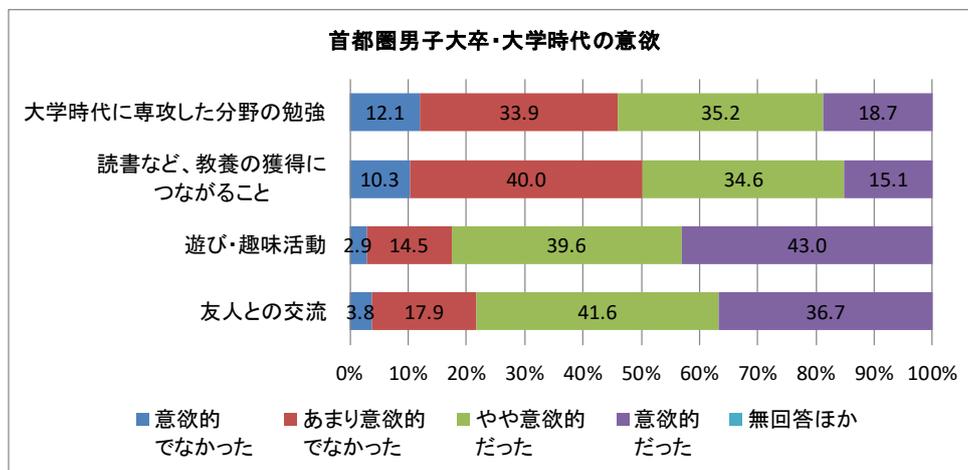
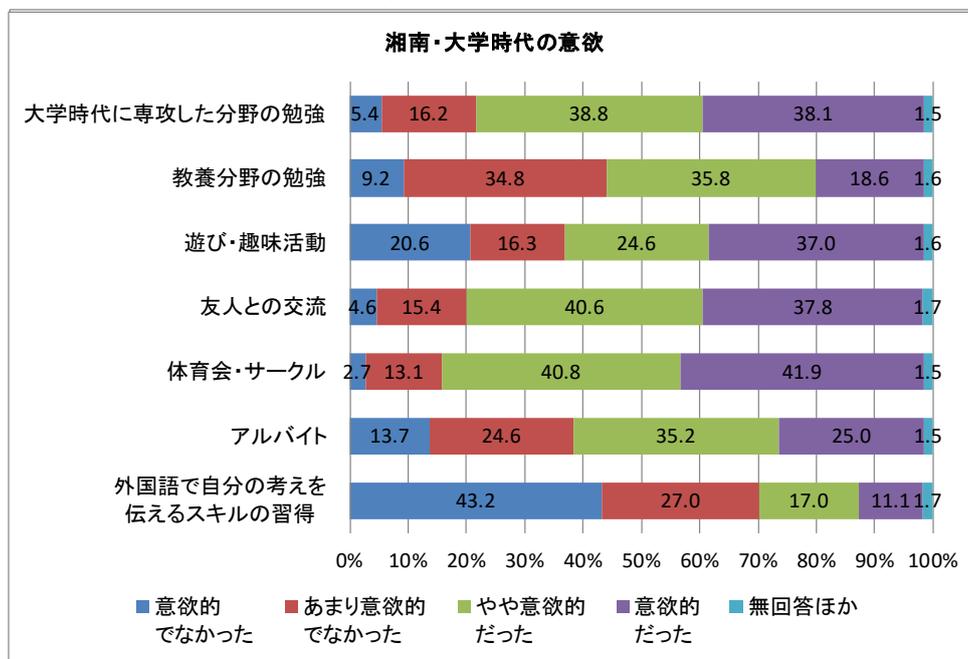


## Part 3 大学時代の生活実態

### 3.1 学習や読書、遊びなどに対する意欲（一部首都圏男子大卒調査項目）

調査では、大学時代に関しても、その過ごし方を意欲の観点から答えてもらった。結果からは、専門の学習や友人との交流、そして体育会・サークルなどに意欲的に取り組む大学時代を過ごしていた湘南卒業生の姿が読み取れる。なかでも「大学で専攻した分野の勉強」と「体育会・サークル」の回答分布は注目されよう。前者は首都圏男子大卒と比べたときにその強さが、後者は項目間の比較を行ったときに強さが浮き彫りになる項目である。高校時代の意欲に関しても、湘南卒業生は「受験につながる教科の勉強」と「学校行事・課外活動」で目立った傾向を示していたが、それに通じる結果だとみることができる（図表 3-1）。

図表 3-1

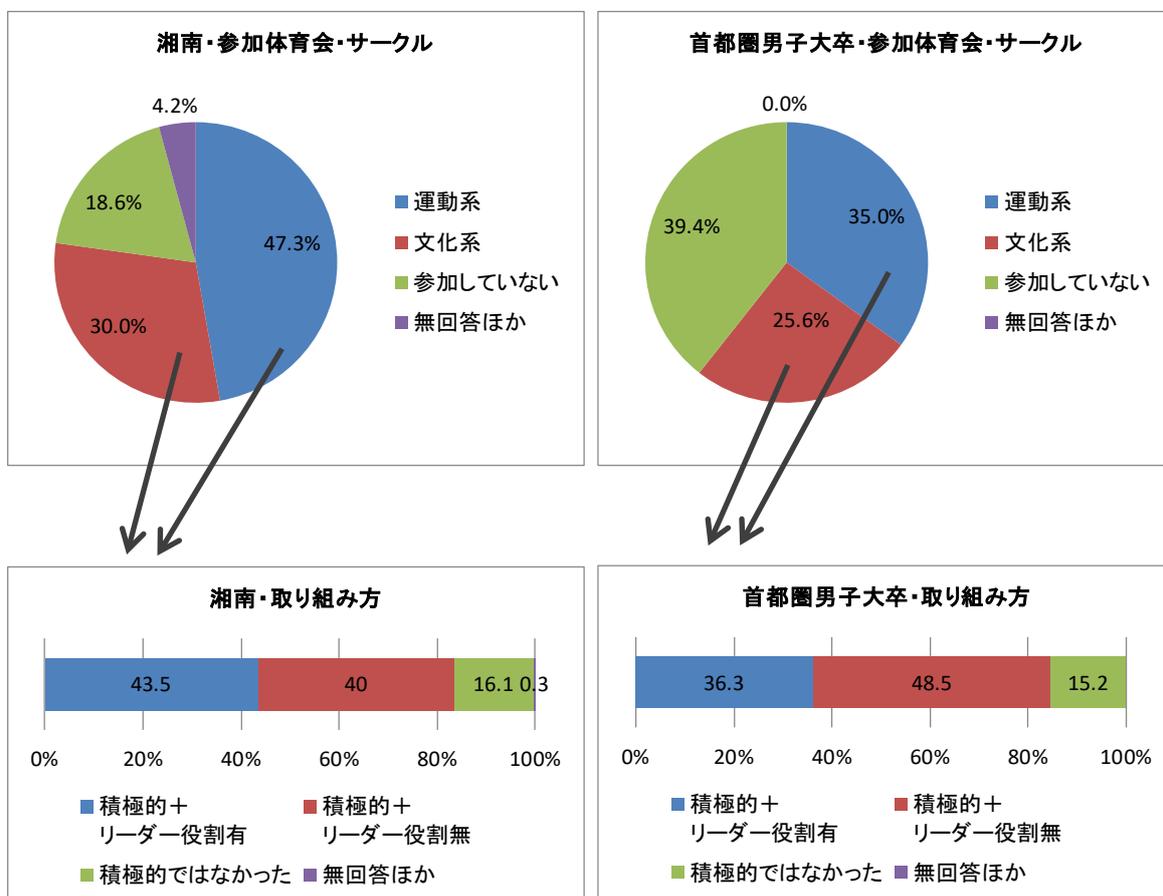


### 3.2 体育会・サークルへの取り組み (首都圏男子大卒調査項目)

湘南卒業生は、大学時代の体育会・サークルに関しても積極的に関わっている。参加していた体育会・サークルが「運動系」だったという者は 47.3%、「文化系」だったという者は 30.0%、合わせて 77.3%。「運動系」35.0%、「文化系」25.6%、合わせて 60.6%だった首都圏男子大卒とのあいだには、2 割弱の差が開いている。

体育会・サークルに入ってから役割にも違いがある。湘南卒業生は、体育会・サークルに参加していた者の 4 割強が、体育会・サークル内でリーダー的役割を担っていた。他方、首都圏男子大卒のその比率は 36.3%。体育会・サークルが、高校時代の部活動以上に、リーダー的役割を担う場になっていたと指摘することができる (図表 3-2、図表 2-3 参照)。

図表 3-2

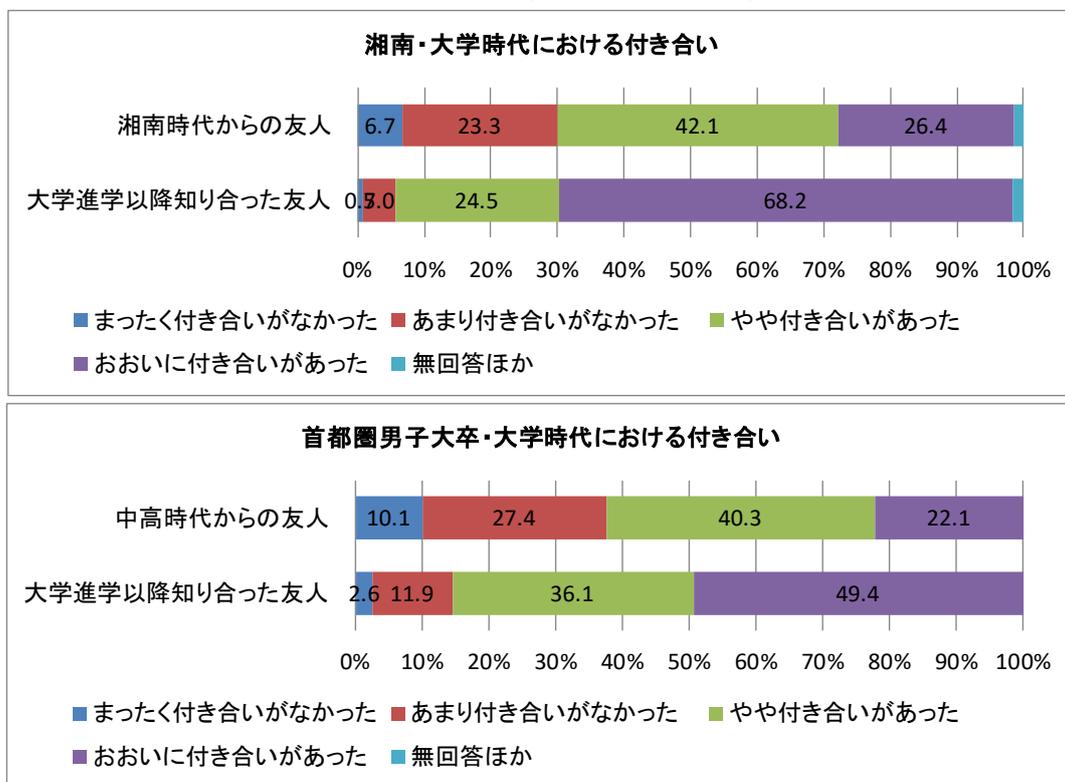


### 3.3 大学時代に付き合っていた友人（首都圏男子大卒調査項目）

大学時代における友人との付き合いについて、「湘南高等学校時代からの友人」と「大学進学以降に知り合った友人」との別に尋ねた。首都圏男子大卒にも類似の質問をしたが、湘南卒業生のほうが相対的に高校時代の友人との付き合いが続いているようだ。「付き合いがあった（やや+おおいに）」の比率は、湘南卒業生 68.5%、首都圏男子大卒 62.4%である。

ただ、湘南卒業生の場合、むしろ「大学進学以降に知り合った友人」との付き合いの多さのほうが目立つといえるかもしれない。「おおいに付き合いがあった」とする者の比率は 68.2%（首都圏男子大卒 49.4%）。新しい環境で友人たちとの交流を積極的に広め、深めている様子が見えがえる（図表 3-3）。

図表 3-3

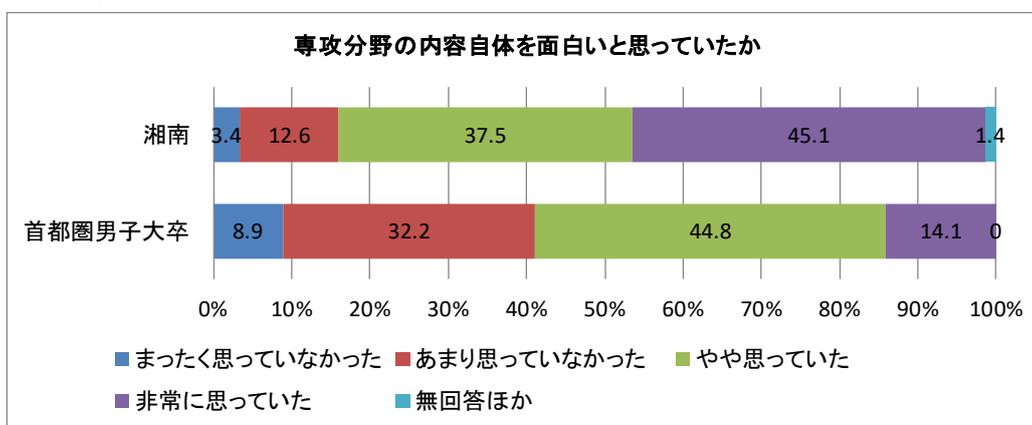


### 3.4 専攻分野の勉強「内容自体を面白い」と思っていたか（首都圏男子大卒調査項目）

調査結果からは、大学時代における専攻の勉強についても興味を持ちながら進めていた湘南卒業生の様相がうかがえた。専攻分野の「内容自体を面白い」と「非常に思っていた」者が45.1%、「やや思っていた」者が37.5%であり、合わせて8割を超える者が関心にマッチした学習を実現していたようだ（図表3-4）。

なお、学部時代の専攻領域別にみると、もっとも面白さを感じながら学習を進めることができていたのは、医療系に進学した者だった。「非常に思っていた」53.2%。対して人文社会系は若干その傾向が弱く、「非常に思っていた」40.8%だった。

図表 3-4

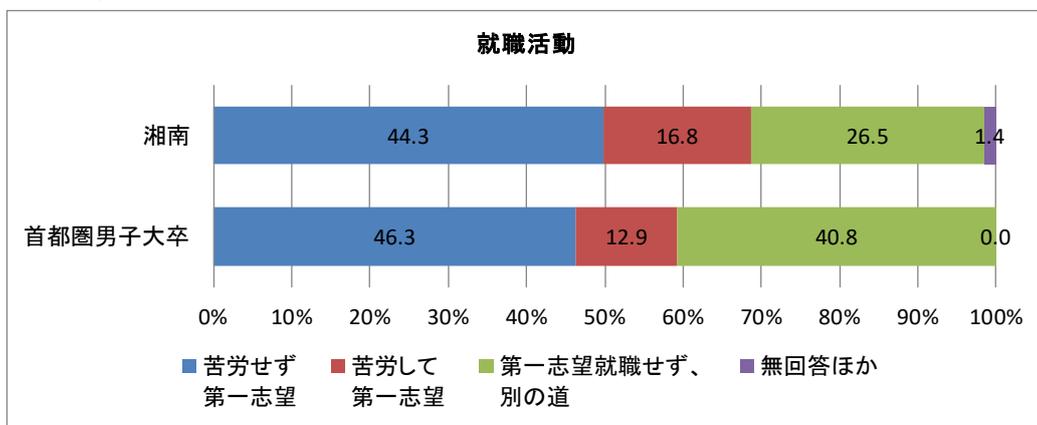


### 3.5 就職活動（首都圏男子大卒調査項目）

就職活動に関しては、大学受験と状況を異にして、「大きな苦勞せずに、第一志望に就職した」者の比率が高く出る結果となった。そして第一志望に就職できず、別の道を選んだ者の比率は 26.5%であり、首都圏男子大卒 40.8%との差異が際立った結果になっている（図表 3-5）。

ただ、就職活動の状況については、とりわけ世代による違いが大きい。経済状況を背景にすることではあろうが、「苦勞せず第一志望」の比率で変化を示せば、50代 59.2%であったのに対し、40代 37.8%、30代 40.2%、そして20代では 34.6%にまで値は下がる。

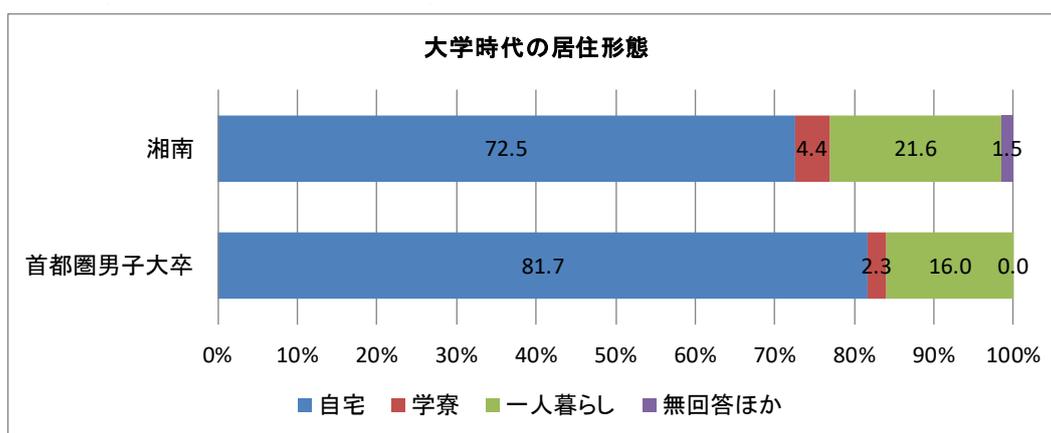
図表 3-5



### 3.6 大学時代の居住形態（首都圏男子大卒調査項目）

大学が多数設置されている首都圏の出身者だけあって、湘南卒業生も首都圏男子大卒も、大半が自宅から大学に通っていた（図表 3-6）。一人暮らしをしていた者の比率は、湘南卒業生で若干多くなっているが（湘南 21.6%、首都圏男子大卒 16.0%）、その背景には医学部進学が関係しているようだ。医療系に進学した湘南卒業生のうち、一人暮らしをしていたのは 41.3%。これによって全体としての一人暮らし率が引き上げられている。

図表 3-6



## Part 4 現在の仕事

### 4.1 現在の仕事：基本情報

勤務状況を「現在、就労している」「現在、就労していない（過去に就労経験あり）」「就労経験はない」から選んでもらったところ、回答比率は順に 90.8%、7.9%、1.1%（無回答ほかは 0.2%）。なお、男女別にこの比率を出せば、男性卒業生 96.7%、1.3%、1.8%、女性卒業生 84.8%、14.7%、0.3%であり、女性も多くが現役で働いている様相がうかがえた\*。

調査では、さらに前者 2 つ（「現在、就労している」「現在、就労していない（過去に就労経験あり）」）を選択した者に、現職の状況（過去に就労経験があった者については、就労していた最後の仕事の状況）をいくつかの側面から答えてもらったが、「勤務先」から回答分布を示せば、「会社（株式会社など）」が 53.3%、「自ら起業に関わった組織」が 3.5%、「会社以外の組織（法律事務所、会計事務所、病院、学校、官公庁など）」が 35.1%、「その他」が 3.7%、「無回答ほか」2.4%。そして「会社」「起業した組織」で働いている人（働いていた人）の基本属性、「会社以外の組織」で働いている人（働いていた人）の基本属性をそれぞれまとめたものが、図表 4-1 になる。

首都圏男子大卒調査と若干選択肢を異にするため、単純な比較はできないが、湘南卒業生の目立った特徴として、（1）大企業で働く者が多い、（2）医師や大学教員・研究者、教師といった専門職に就く者が多い、（3）企業で働く場合は、技術研究開発が多い、（4）管理職につく者が少ない、といった特徴が挙げられよう。ただし、（4）については、首都圏男子大卒には含まれない 20 代の回答の影響が大きい。

なお、調査では年収についても尋ねた。現在、正規として就労している卒業生のみ限定して平均値を算出すれば、湘南卒業生（男子）1,117 万円、湘南卒業生（女子）687 万円、首都圏男子大卒 755 万円という値が得られた。

---

\* なお、女性の湘南卒業生で「現在、就労している」「現在、就労していない（過去に就労経験あり）」と回答した者の 7 割以上が、状況を正規としての就労だと答えていた。

図表 4-1

従業員数

	湘南 (企業・起業)	湘南 (ほか組織)	首都圏 男子大卒 (全体)
1人	0.9	0.2	3.6
2～4人	2.1	1.2	5.2
5～9人	1.4	2.9	2.9
10～29人	3.7	5.3	5.4
30～99人	3.9	17.6	9.1
100～299人	6.4	9.6	12.6
300～499人	4.1	5.5	5.6
500～999人	7.1	7.4	8.6
1000～4999人	18.0	21.3	17.3
5000人以上	51.5	23.3	20.6
わからない (首都圏男子大卒の場合、プラス官公庁)	0.8	5.1	9.2
無回答ほか	0.2	0.6	0.0

仕事の内容

	湘南 (企業・起業)	湘南 (ほか組織)
事務	16.1	
営業	16.3	
販売サービス	1.0	
企画	14.0	
技術研究開発	29.4	
コンサルタント	4.4	
その他企業(起業した組織)内の仕事	14.3	
医師		
弁護士・弁理士・司法書士		2.0
会計士・税理士		2.2
大学教員・研究者		12.3
教師		19.0
政治家		0.0
その他専門職		12.9
事務職など、専門職以外の仕事		6.5
公務員		28.0
無回答ほか	4.5	1.4

※首都圏男子大卒全体のうち、もっとも多かったのは事務24.0%、続いて技術21.3%。なお、医師と大学教員・研究者は、いずれも1.0%だった。

役職名

	湘南 (企業・起業)	湘南 (ほか組織)	首都圏 男子大卒 (全体)
役職なし	41.0	49.7	33.6
係長、係長相当職	14.6	12.3	20.0
課長、課長相当職	17.8	11.4	22.2
部長、部長相当職	16.1	11.4	13.2
社長、役員、理事	9.1	6.3	8.8
わからない	1.2	7.6	2.2
無回答ほか	0.2	1.4	0.0

## 4.2 仕事のメイン領域

仕事のメイン領域を 12 の区分から選んでもらったところ、回答分布は図表 4-2 に示すとおりになった。「技術・IT」と「経済界」が上位 2 つを占めるが、「医師や大学教員・研究者、教師といった専門職に就く者が多い」（4.1 参照）という上述の特徴と関連して、「医療」「教育」も 1 割を超える者が選択している。換言すれば、「技術・IT」「経済界」「医療」「教育」の 4 領域に 3 分の 2 の卒業生が集中しているというのが現状であるようだ。

図表 4-2

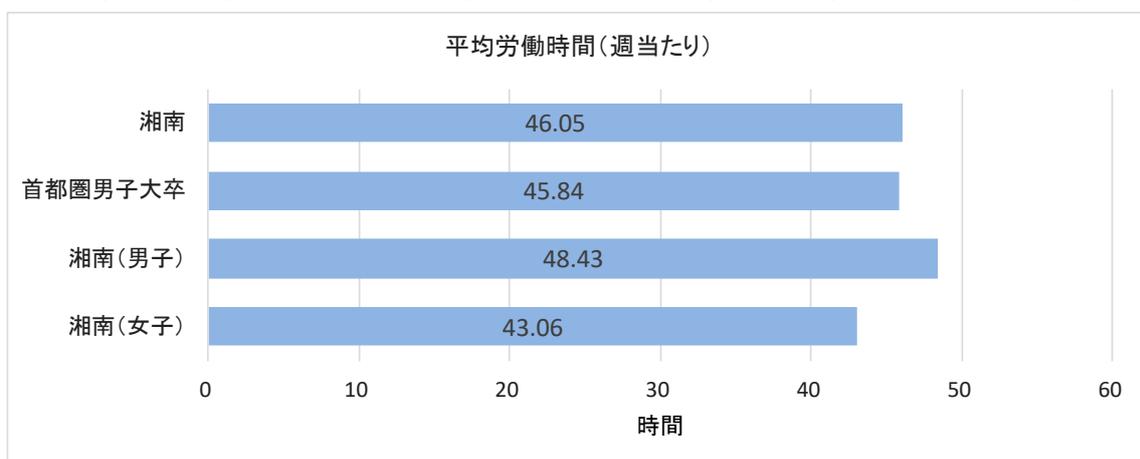
学界	4.3%
芸術・創作	2.6%
経済界	18.4%
官界	5.6%
スポーツ	0.4%
教育	12.0%
政界	0.1%
法曹界	2.6%
医療	14.9%
報道・マスコミ	3.7%
技術・IT	19.7%
その他	13.0%
無回答ほか	2.9%

### 4.3 労働時間（首都圏男子大卒調査項目）

※正規として「現在、就労している」「現在、就労していない（過去に就労経験あり）」と回答した卒業生のデータのみ抽出して算出。「現在、就労していない（過去に就労経験あり）」卒業生は、就労していた最後の仕事に従事していた時点の状況を回答している。以下、4.9まで同様。

週当たりの労働時間は、湘南卒業生 46.05 時間だった。首都圏男子大卒は 45.84 時間だったので、その差はわずかということになる。ただし、男女別に値を出し直すと、男子卒業生 48.43 時間、女子卒業生 43.06 時間という値が得られ、男子に限れば、湘南卒業生は相対的に多くの時間を就労にあてていることが読み取れる（図表 4-3）。

図表 4-3

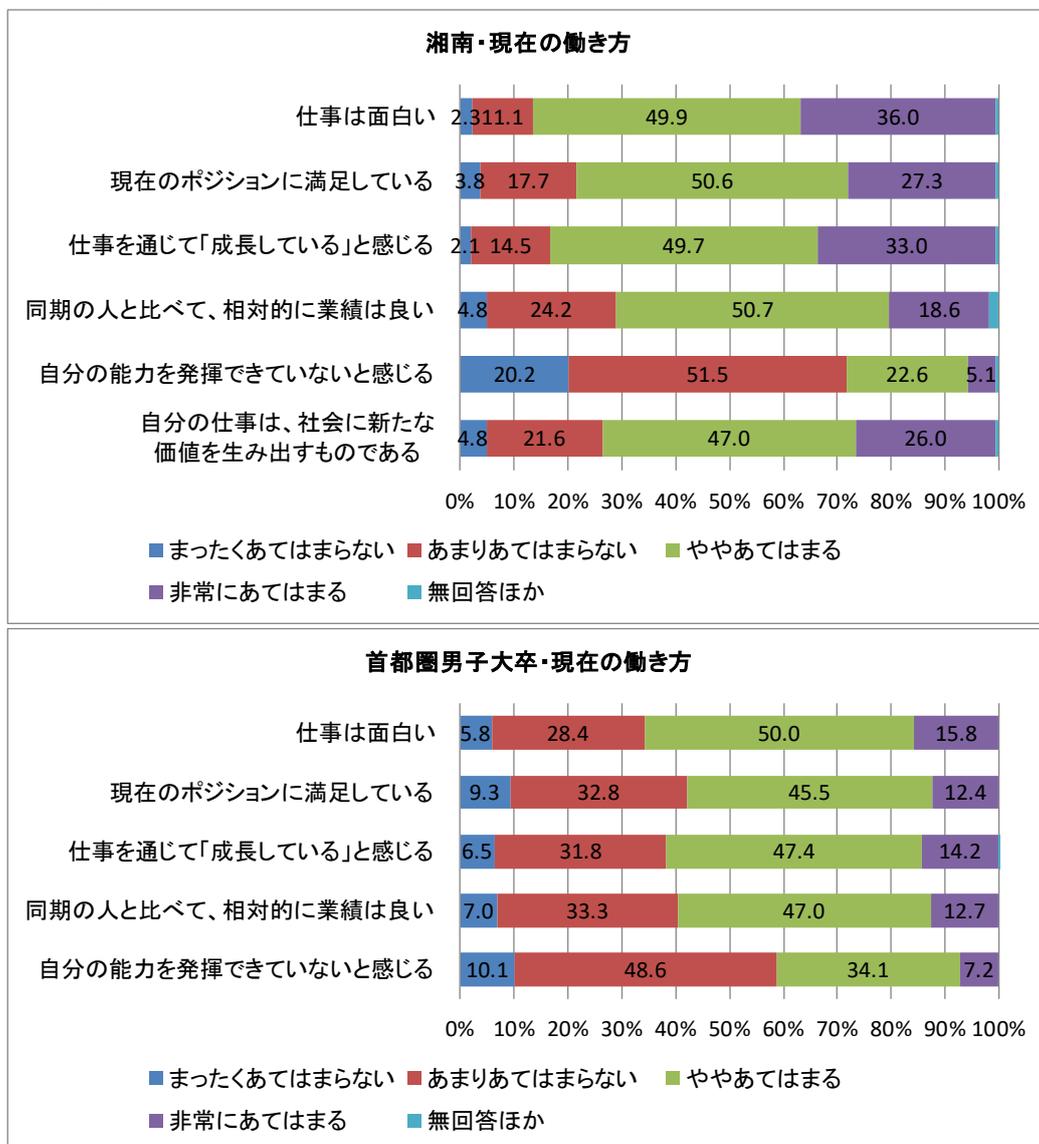


#### 4.4 就業意識（首都圏男子大卒調査項目） ※正規のみ

現在の就業意識について尋ねた質問の回答分布からは、湘南卒業生が「生き生きと」仕事をしている姿が読み取れた。「仕事は面白い」「現在のポジションに満足している」「仕事を通じて『成長している』と感じる」の3つについて「非常にあてはまる」を選んだ者の比率が高く、「やや」も足し合わせれば、8割前後が「あてはまる」と回答している。6割ほどでどまった首都圏男子大卒と大きな差異が確認される。

他方で「自分の能力を發揮できていないと感じる」者の比率は、湘南卒業生 27.8%、首都圏男子大卒 41.3%と、湘南卒業生の方が少なかった。また、比較項目ではないが、「自分の仕事は、社会に新たな価値を生み出すものである」という者も多く、比率は 73.0%である（図表 4-4）。

図表 4-4

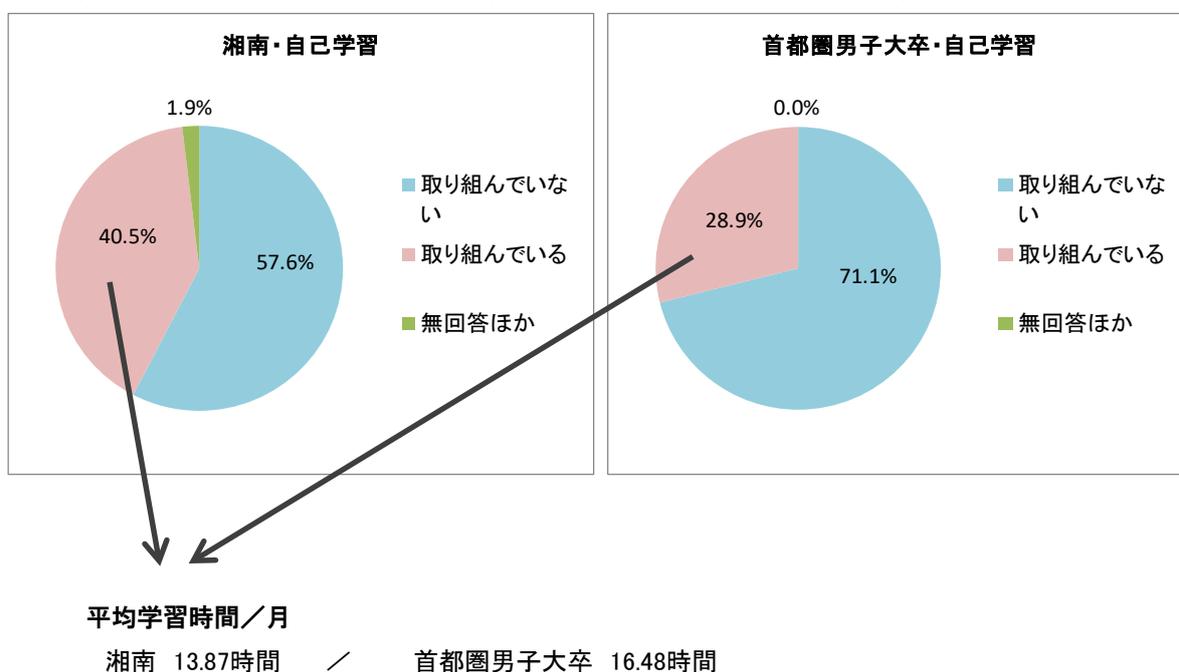


#### 4.5 仕事やキャリアのための自己学習（首都圏男子大卒調査項目） ※正規のみ

湘南卒業生には、就業後も自主的に学習に取り組む傾向があるようだ。「自分自身のキャリアのために、読書や参加型の勉強会への参加、英会話学校などの学習に、自主的に取り組んでいるかどうか」を尋ねたところ、首都圏男子大卒の「取り組んでいる」と回答する者の比率が 28.9% だったのに対し、湘南卒業生は 40.5% にのびた。

ただ、取り組んでいる者の学習時間については、湘南卒業生のほうが少ない。一か月あたりの平均値を算出すれば、湘南卒業生 13.87 時間、首都圏男子大卒 16.48 時間。とはいえ、量が少ないというより、効率よく学んでいる可能性もあることは断っておく必要があるだろう（図表 4-5）。

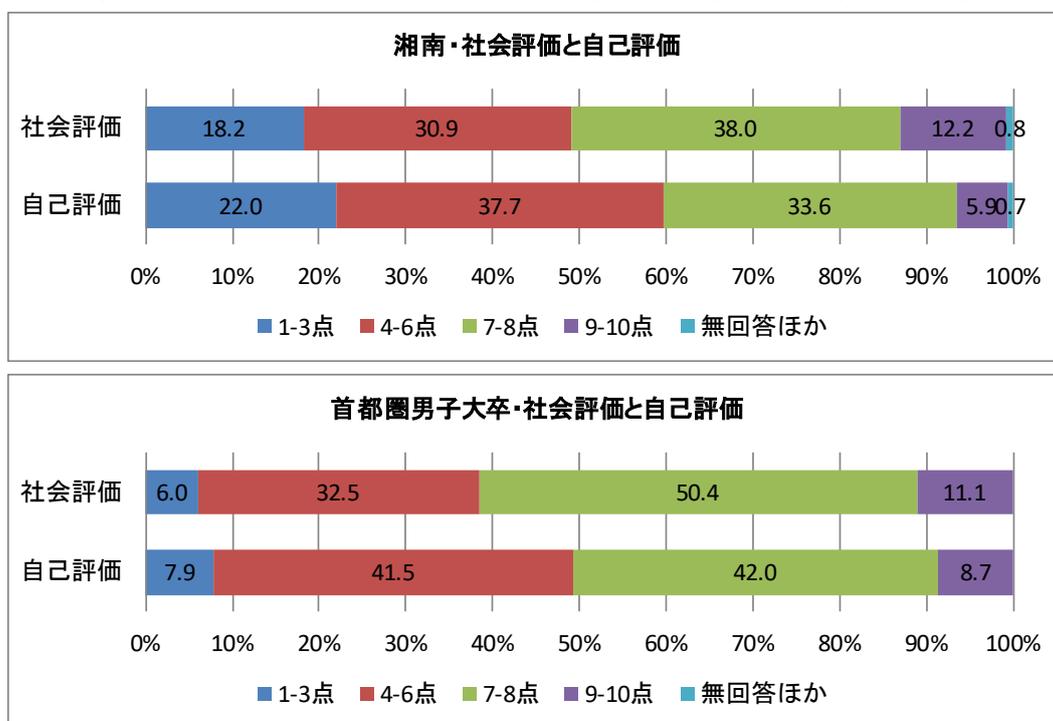
図表 4-5



#### 4.6 「駆け出しの新米～第一人者」のどの段階か（首都圏男子大卒調査項目） ※正規のみ

質問項目「あなたの仕事領域（所属する業界、職業、企業等）で働いている人を、“駆け出しの新米＝1点”～“その道の第一人者＝10点”と評価した場合、（1）顧客や社会にどの段階にいると思われているか、（2）自分自身、どの段階にいると思っているか」を設定し、仕事上での成長段階を尋ねた。採点の回答分布は、図表 4-6 のとおり。ここからは、湘南卒業生と首都圏男子大卒ともに社会評価よりも自己評価の方が厳しめであることが読み取れよう。なお、湘南卒業生の方が社会評価も自己評価も総じて低い結果になっているが、その大きな理由は、湘南卒業生の回答者には 20 代も含まれる一方で、首都圏男子大卒には含まれていないことにあると考えられる。30 代以上の湘南卒業生のみ限定して算出すると、両者のあいだにそれほど大きな差異は認められなくなる。

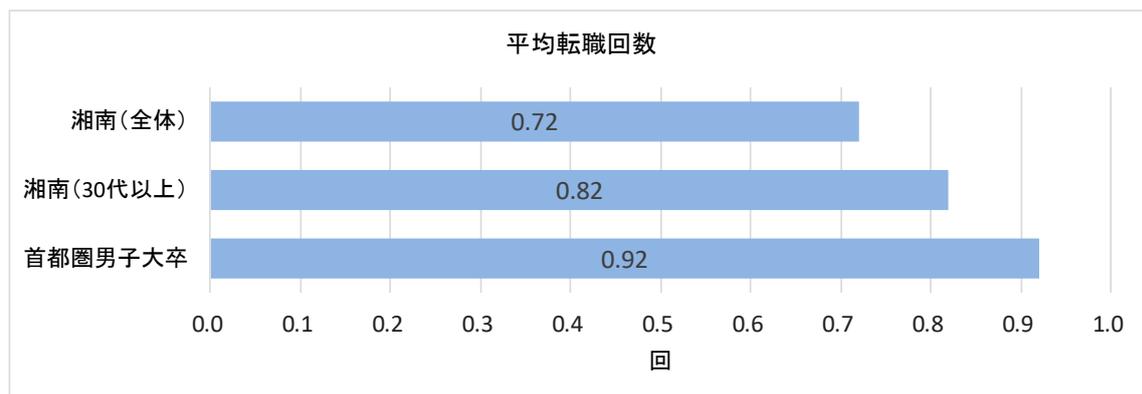
図表 4-6



#### 4.7 転職回数（首都圏男子大卒調査項目） ※正規のみ

現在までの転職回数を答えてもらったところ、その平均値は湘南卒業生 0.72（首都圏男子大卒同様、30代以上に限定すれば、0.82）、対して首都圏男子大卒は 0.92 だった。湘南卒業生は、就業後、相対的にひとつの組織にとどまる傾向が強いことがわかる（図表 4-7）。

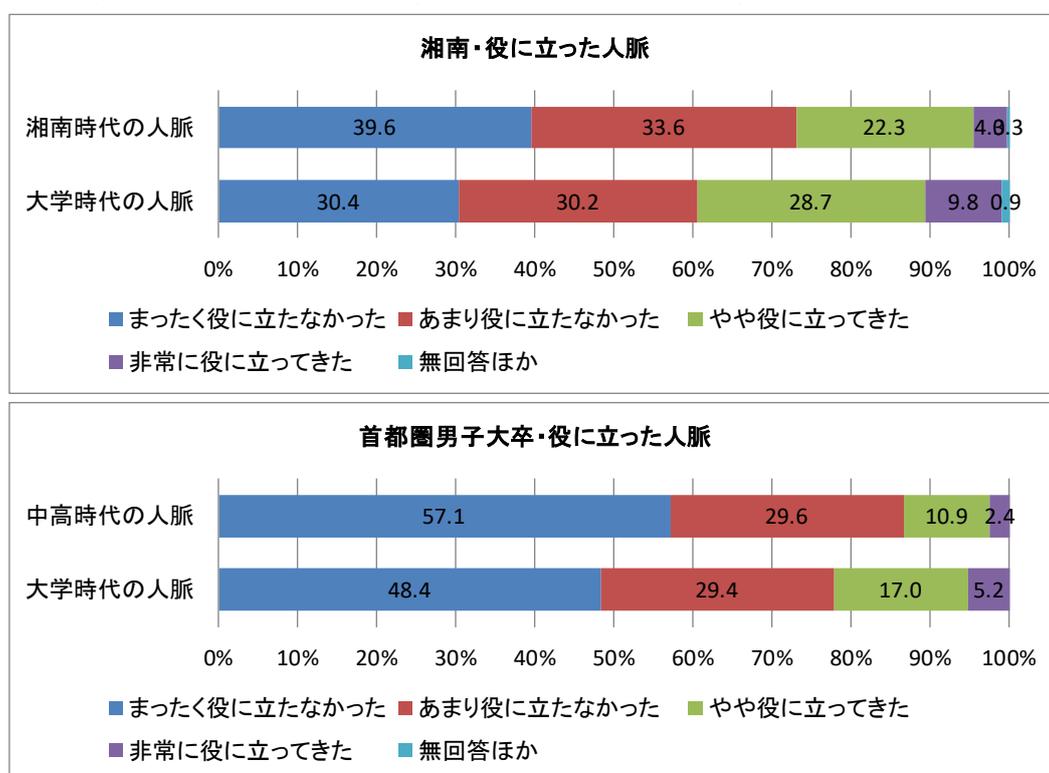
図表 4-7



#### 4.8 仕事を進めるうえで役に立った人脈（首都圏男子大卒調査項目） ※正規のみ

「高校時代の人脈」と「大学時代の人脈」のそれぞれについて、仕事を進めるうえでどれほど役に立ったかを尋ねた。その結果、首都圏男子大卒（中高時代）に比べて、湘南卒業生の方が総体的に人脈を活かしながら仕事をしていることが明らかになった。高校時代の人脈を役に立った（やや＋非常に）とする者の比率は、首都圏男子大卒 13.3%、湘南卒業生 27.1%と 2 倍ほどの差が開いている。また、「大学時代の人脈」を役立ったとする者の比率も大きい。中高時代の経験をベースにしつつ、大学進学以降に築き上げた幅広いネットワークも活用しながら、キャリアを築いている湘南卒業生が少なくないということだ（図表 4-8）。

図表 4-8

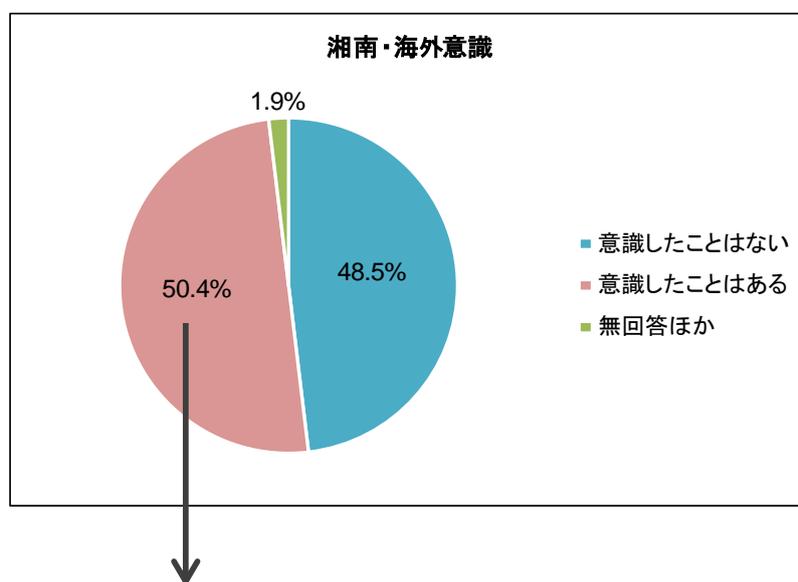


#### 4.9 仕事上の活躍の場としての海外（首都圏男子大卒調査項目） ※正規のみ

なお、調査では、仕事上における「海外」の位置づけを探るべく、2つの質問項目を設定した。1つは、仕事上の活躍の場として海外を「意識」したことがあるかどうかを尋ねるもので、結果としては5割が意識をしており、かつその5割が就業後に意識するようになったという。ただ他方で、大学時代や高校入学以前から意識しているという者も少なくない（図表4-9）。

もう1つは、実態がどうかというものであり、図表4-10によれば、「非常に」と「やや」を加えて、6割もの卒業生が「海外を意識する仕事に従事している／していた」と回答している。湘南卒業生にとって、海外は重要な活躍の場になっていることがうかがえよう。

図表 4-9



意識した時期

高校入学以前	15.5%
高校時代	6.8%
大学時代	27.9%
就業後	49.3%
無回答ほか	0.4%

図表 4-10

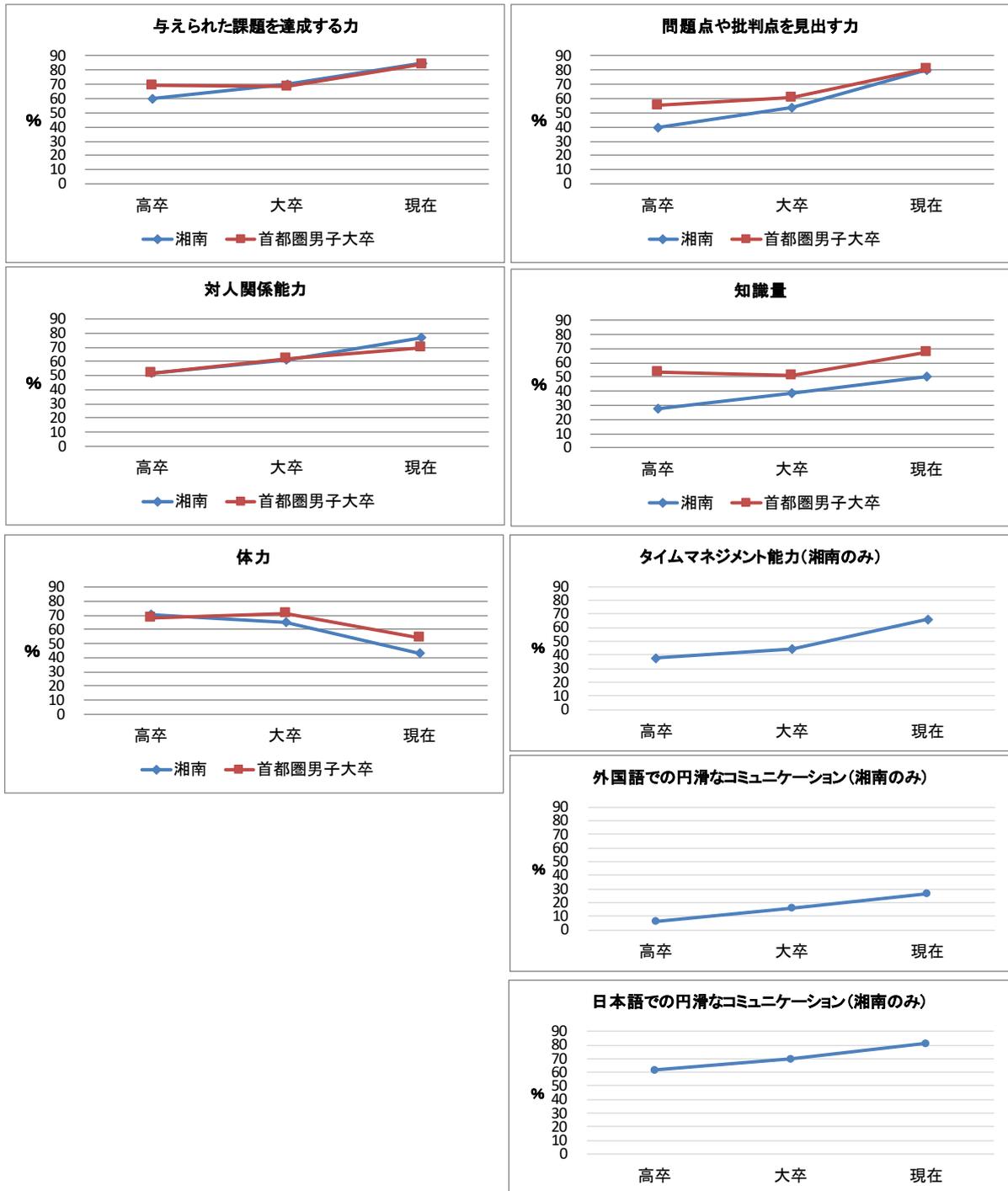
海外を意識する仕事に従事したことはない	39.2%
やや海外を意識する仕事に従事している／していた	33.1%
非常に海外を意識する仕事に従事している／していた	26.7%
無回答ほか	1.0%

## Part 5 これまでの変化

### 5.1 いつ自信がついたのか（一部首都圏男子大卒調査項目）

調査では、（１）与えられた課題を達成する力、（２）問題点や批判点を見出す力、（３）対人関係能力、（４）知識量、（５）体力、（６）外国語での円滑なコミュニケーション、（７）日本語での円滑なコミュニケーション、の 7 つについて、自信を持っていた（持っている）かどうか、「高卒時点」「大卒（院卒）時点」「現在」の別に答えてもらった。体力以外、基本的には時間とともに自信は高まっていく様子うかがえたが、とくに指摘しておきたい点として、湘南卒業生は、高卒時点から秀でていたというわけではなく、時間を経るにつれて自信も上昇していることが挙げられる。「問題点や批判点を見出す力」については、高卒時点で首都圏男子大卒よりも自信を持っている者が少なかったものの、就業後には逆転している。蓄えていたものが一気に花開いていくといったイメージだろうか。また、「外国語での円滑なコミュニケーション」についても、英語の学び場でもある学校を離れたら下がるというわけではなく、むしろ就業してから自信をつける卒業生が増えている様相うかがえる（図表 5-1）。

図表 5-1

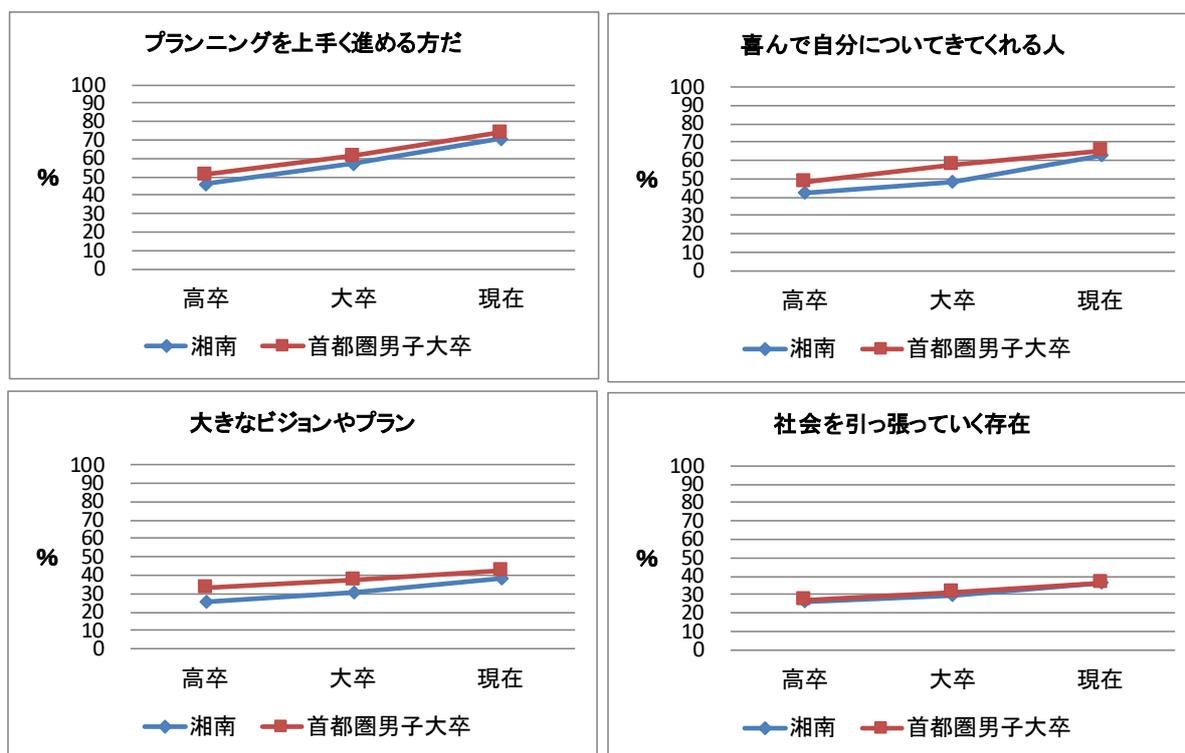


※「自信あり」と回答した人の比率。ただし首都圏男子大卒の調査では「高卒」は「中学～高校時代」、「大卒」は「大学時代」という表現で尋ねている。

## 5.2 自分にはどのような傾向があるか (首都圏男子大卒調査項目)

さらに自分自身にどのような傾向があるか、(1) 勉強や遊び、行事、仕事をこなすためのプランニングを上手く進める方だ、(2) 喜んで自分についてきてくれる人がいる、(3) 他の人には描けないような、大きなビジョンやプランを描きたいと思う、(4) 社会を引っ張っていく存在になりたいと思う、の4点について「高卒時点」、「大卒時点」、「現在」の別に答えてもらった。いずれも首都圏男子大卒と同じような比率、同じような動きを見せていることが指摘される (図表 5-2)。

図表 5-2

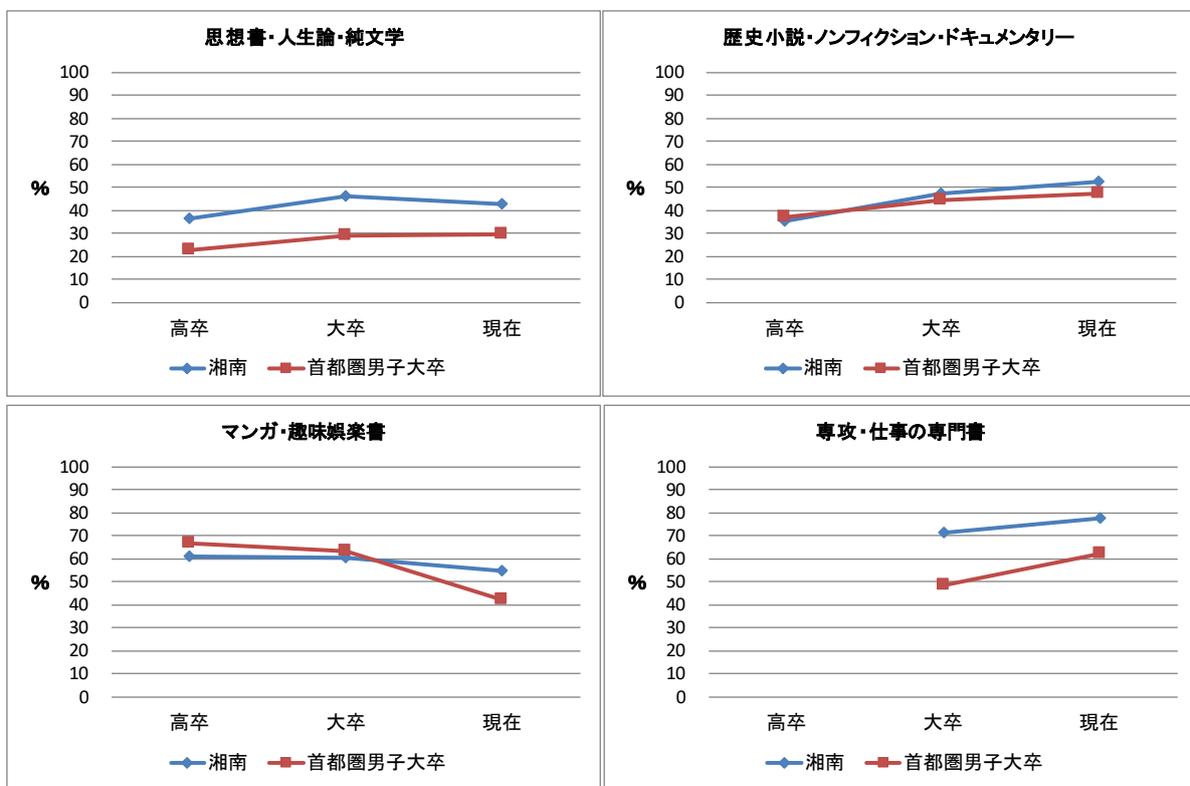


※「傾向あり」と回答した人の比率。ただし首都圏男子大卒の調査では「高卒」は「中学～高校時代」、「大卒」は「大学時代」という表現で尋ねている。

### 5.3 読書（首都圏男子大卒調査項目）

図表 5-3 は、読書の取り組み方について答えてもらった結果である。ここからは、湘南卒業生が、読書に勤しんでいた様相がうかがえよう。(1) 思想書・人生論・純文学については、現在こそ、「よく読んだ(読んでいる)」という人の比率が減少しているものの、4~5割の卒業生が手に取っている。(2) 歴史小説・ノンフィクション・ドキュメンタリー、(4) 自分の専攻・仕事の専門書、の読書率は増し、後者は首都圏男子大卒との差も目立つ。なお、(3) マンガ・趣味娯楽書の読書率は、首都圏男子大卒より少し低かったものが、いまでは湘南卒業生のほうが高くなっている。

図表 5-3

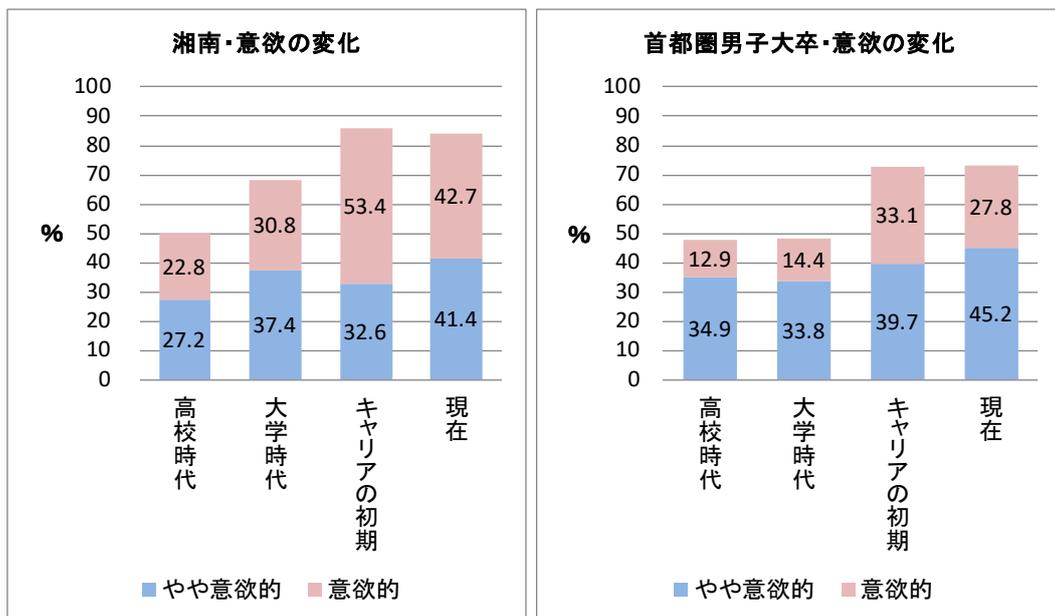


※「よく読んだ(読んでいる)」という人の比率。ただし首都圏男子大卒の調査では「高卒」は「中学～高校時代」、「大卒」は「大学時代」という表現で尋ねている。

## 5.4 勉強・仕事に対する意欲の変化（首都圏男子大卒調査項目）

勉強や仕事という、いわゆる「本分」への意欲について、4つの時期段階別に尋ねた。湘南卒業生の特徴として、（1）高校時代の意欲はそれほど高くないなかで、大学時代にその意欲は上昇すること、（2）就業後に意欲はさらに急上昇し、8割を超える者が意欲的に仕事に取り組んでいること、（3）初期キャリアに比べて、意欲は下がるものの、それでも働き続けていく中で、8割を超える者が意欲を持ち続けていること、の3点が挙げられる（図表5-4）。

図表 5-4



※4択のうち、「意欲的」と「やや意欲的」の2つを選択した者の比率を提示

## 5.5 大卒後の外国語スキル習得意欲

調査では、大学卒業後、外国語で自分の考えを伝えるスキル習得にどれほど意欲的だったのかを4件法で答えてもらった。結果、「やや」と「非常に」を足し合わせると、5割を超える卒業生が意欲的であることが読み取れる（図表 5-5）。高校時代の状況（図表 2-1）、そして大学時代の状況（図表 3-1）とは大きく異なる分布であり、湘南卒業生の多くが必要性を強く感じることで外国語に向き合うようになっている様相がうかがえる。

図表 5-5

意欲的だったことはほとんどなかった	26.6%
意欲的だったことはあまりなかった	18.0%
やや意欲的だったことがある／いまやや意欲的である	29.6%
非常に意欲的だったことがある／いま非常に意欲的である	25.4%
無回答ほか	0.4%

## 5.6 海外滞在経験と教育への意見

海外滞在については、幼い時の「親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在」というものから、「留学」「勤務先の研修」「転勤（海外勤務）」など、様々な機会が想定されよう。調査では、これら4つの項目に「その他」を加え、滞在経験の有無を聞いたところ、図表 5-6 に示すとおりの分布が得られた。これら経験の標準的なありようがどのようなものなのかがみえないため、どのように評価すればいいのかわかりにくいですが、2 割弱の卒業生が「留学」を経験している点などは、湘南卒業生と海外との距離の近さを物語る結果だといえるのではないだろうか。

また、こうした卒業生たちに、「高校 3 年間の時間のどれほどを『海外を意識した活動』に充てるべきか」、受験対策としての教科の勉強に充てる時間を「100」とした場合の数値で答えてもらったところ、平均にして「30.60」という値が得られた。決して小さい値ではなく、後輩たちが海外へ目を向ける仕掛けが必要だと強く感じているのも、湘南卒業生の特徴だといえそうだ。

図表 5-6

親(保護者)の海外赴任に伴う海外滞在	7.3%
留学	17.4%
勤務先の研修	7.9%
転勤(海外勤務)	9.7%
その他、特記すべき経験	13.2%

受験対策としての教科の勉強に充てる時間を「100」としたとき、「海外を意識した活動」に充てるべき時間は

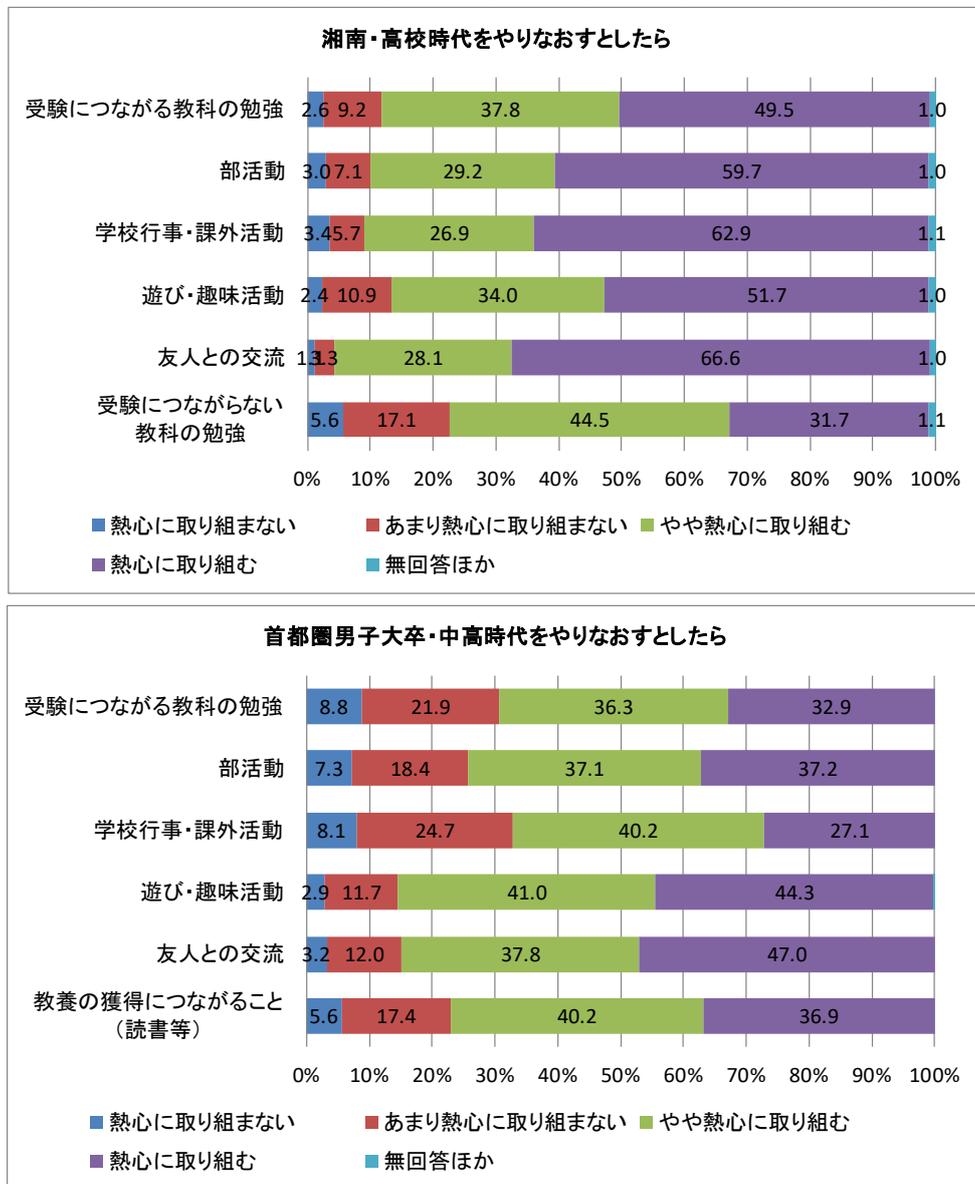
平均 30.60

## Part 6 高校時代を振り返って

### 6.1 やりなおすとしたら、熱心に取り組むもの（一部首都圏男子大卒調査項目）

高校時代をやりなおすとしたら、何に熱心に取り組むのかを聞いたところ、湘南校卒業生は首都圏男子大卒と比べて、おおよそどの活動についても積極的に捉えている様相がうかがえた。そうしたなか、「部活動」や「学校行事・課外活動」「友人との交流」とともに「受験につながる教科の勉強」を「熱心に取り組む」と回答している点は注目されよう。なお、逆に「受験につながらない教科の勉強」は、他の項目に比べて肯定的な回答が集まりにくいものになっていた（図表 6-1）。

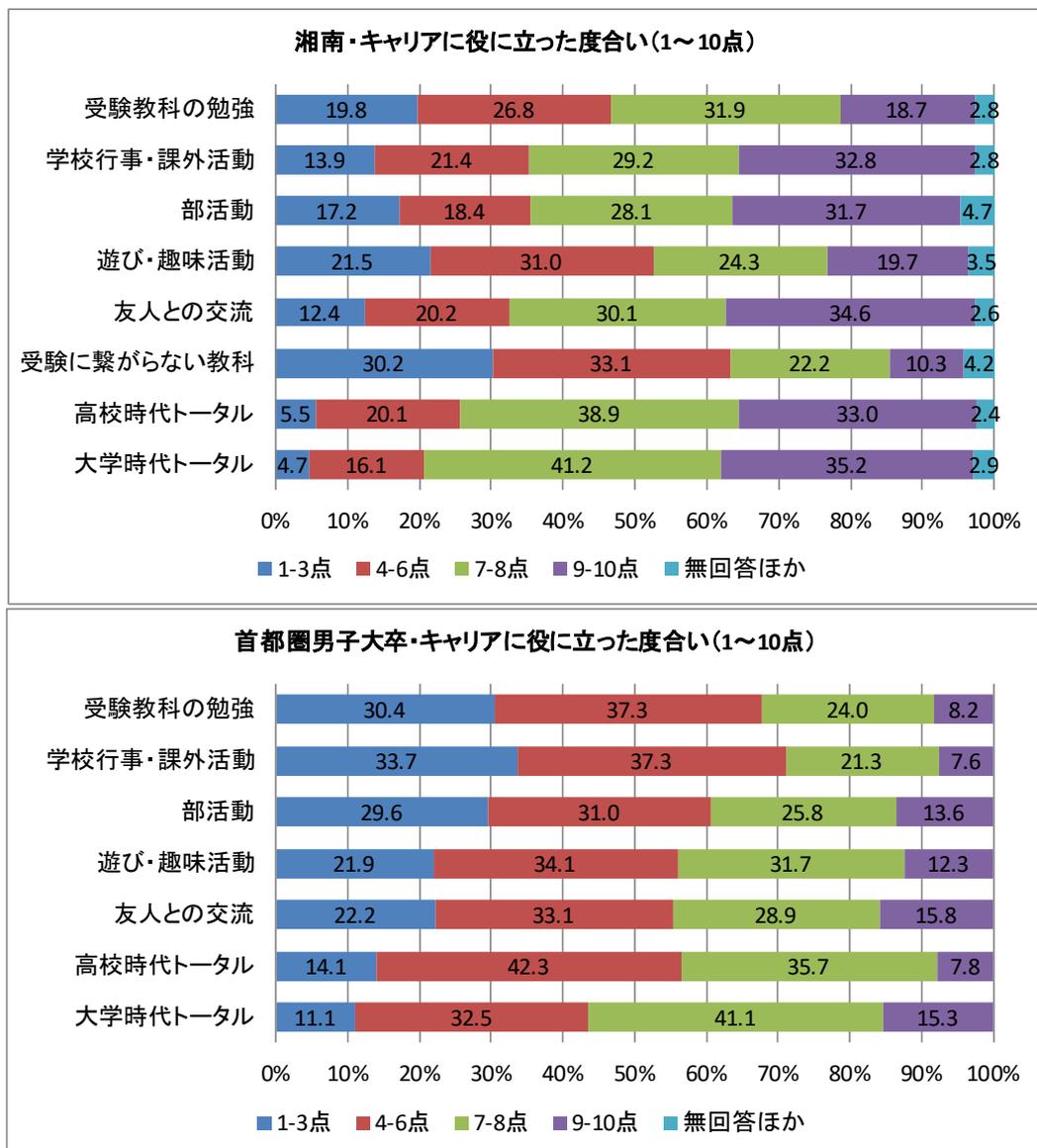
図表 6-1



## 6.2 キャリアに役立った度合い（一部首都圏男子大卒調査項目）

これまでのキャリアに高校時代それぞれの経験がどれほど役に立ったと考えるか、10点満点で採点してもらった。図表 6-2 にその回答分布を示したが、湘南卒業生が高校時代、ひいては大学時代にも大きな意義を見出していることがわかるだろう。そうしたなか、もっとも評価しているのは「学校行事・課外活動」「部活動」「友人との交流」の3つである。9点もしくは10点をつけた者は3割を超え、勉強関連、遊びや趣味の項目に差をつけている（図表 6-2）。

図表 6-2

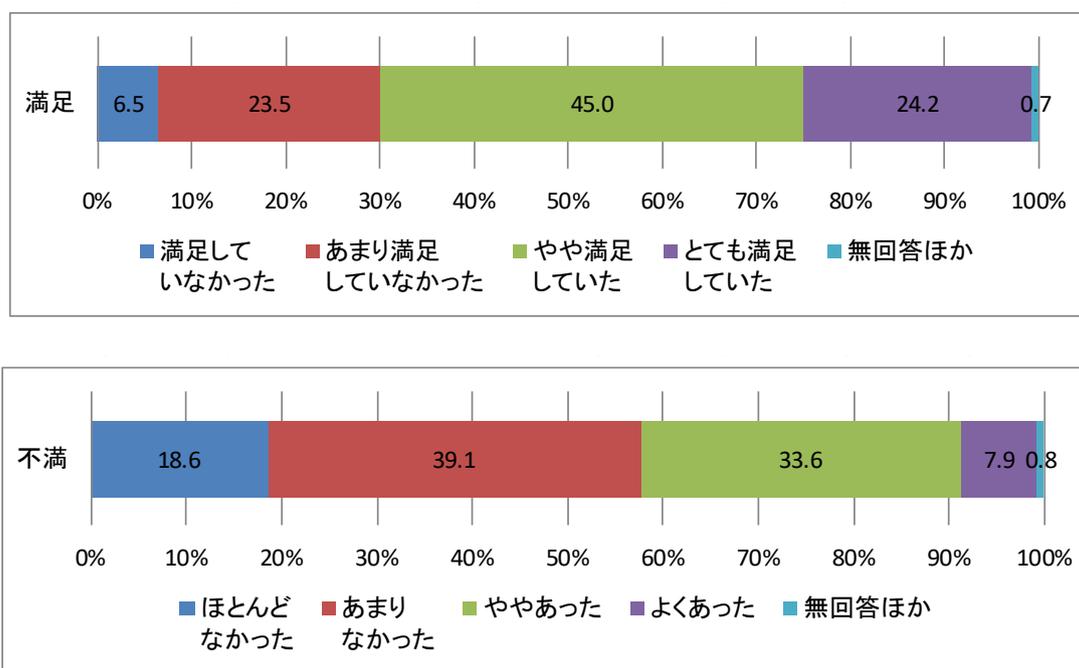


### 6.3 湘南への満足・不満

調査では、湘南高等学校の教育に対して満足していたか、不満を感じていたかを答えてもらった。結果、7割が満足、他方で4割ほどが不満を感じることもあったと回答している（図表 6-3）。なお、後者の4割についてさらに細かくみると、「満足していながらも、不満を感じていた者」は19%、「満足しておらず、不満を感じていた者」が23%だった。

また、男女別、世代別の状況をみると、男女による明確な違いは見出されなかったが、世代については、若い世代ほど満足し、不満を感じていないという傾向が抽出された。とりわけ20代の満足度は高く、8割を超える者が「満足（やや+とても）」と回答していた。

図表 6-3



## あしがき

以上が、調査の概要になる。データの整理を通じてなによりも鮮明にみえてきたことは、湘南高等学校卒業生の皆さまが多方面にわたって意欲的な生活を送ってきたことであり、そして送っていることである。今後、このデータを多変量解析の手法を用いた分析等を進め、公立進学校の特徴を浮き彫りにするとともに、湘南高等学校、湘南高等学校に通っている後輩の皆さまにとって、有益な情報を抽出したいと考えている。

回答者の皆さまには、ご多忙中、回答のためにお時間を割いていただき、深く御礼申し上げます。膨大な質問にもかかわらず、自由記述を含め、丁寧な回答を寄せていただいた。この貴重なデータを十分に活かすことができるよう、努めていくことにしたい。

最後に調査の作成と実施、取りまとめにおいて、湘南高等学校の先生方、湘友会関係者の皆さまには大変お世話になった。ここに改めて感謝を申し上げたい。

平成 30 年 11 月

東京大学高大接続研究開発センター  
教授 濱中淳子